

旭川市労働者賃金等の実態調査（工事）事業者聞き取り調査 主な意見

○経営状況について

（賃金が昨年比で上がった事業者）

- ・経営については，コロナの影響はない。（市内大手元請）

（賃金が昨年比と同じ事業者）

- ・コロナ禍により仕事が少なくなったため，大幅な減収減益となった。（市内中小下請）

○賃金等について

（賃金が昨年比で上がった事業者）

- ・労働者賃金は工事積算を行う社長が毎年春に設計労務単価や実勢価格を考慮し決めており，昨年比で賃金が上がった。

（賃金が昨年比と同じ又は下がった事業者）

- ・売上減少により昨年比で下がったが，次のような要因が複合的に重なったためと考えられる。①コロナの影響でイベント等の減少 ②下請なので，工事が想定より早く終了すると仕事量が減る ③元請の受注状況の減少。
- ・月給者については，設計労務単価が変わらなかったこともあるが，コロナの影響で仕事量が減って，今年はベースアップができなかった。一方日給者については，コロナの影響が大きく出て，8～9月くらいまでは仕事がなく，出勤した分で支給しているため，大幅な賃金減となった。
- ・労働者賃金が昨年と同じとなったのは，設計労務単価が上がらなかったこと，また，多かれ少なかれコロナの影響が出ているためである。コロナの影響で，気をつけなければならないことが増えたり，消毒等の諸経費がかかったこともあり賃金を上げられなかった。

○設計労務単価との比較について

(設計労務単価に準じ賃金を支給する考えのある事業者)

- ・ 来年は、民間も公共工事も仕事の予定がある程度目処がついているので、公共工事設計労務単価に準じて（賃金を）上げていきたい。

(設計労務単価に準じ賃金を支給する考えのない事業者)

- ・ 福利厚生での社内の充実, すなわち会社が退職金増額のための積み立てや、各人の生命保険関係を社内で掛けており、賃金として出てこないが会社による費用負担が発生しているので、（賃金増は）考えていない。

○雇用について

- ・ 日給制の作業員が高齢で本人の希望で稼働日数を減らしている。
- ・ ここ数年は、働き方改革のこともあり、賃金を含めた雇用環境は、良くなっていると思う。

○労働力について

- ・ 労働力が不足しており、ベトナムの外国人実習生を雇うなどして対応している。
- ・ 土木の仕事を希望する人が少なく、ハローワークに募集をかけてもなり手がいない。
- ・ 応募者がいないのは、作業への悪いイメージが先行していることも要因にある。

○外国人労働者について

- ・ 外国人労働者としてベトナム人実習生を3年間雇い続けているが、非常に大変である。技術がない上、日本語が全く出来ないため、言葉によるコミュニケーションが取りにくい。日本の生活習慣を教えていかないとならない。
- ・ 外国人実習生は2年間来れていない。以前はベトナムが渡航禁止をしていたが、今は日本が渡航禁止している。

- ・外国人実習生の賃金は最低賃金プラス α から始まっている。また現場作業が出来るかどうかで決まっている。待遇は日本人の未経験者と同様である。
- ・外国人実習生についても、経験に応じて賃金のアップは行っている。

○下請について

- ・下請が作業員単価を上げて下請金額へ反映すると、元請から仕事が来なくなり、下請は会社として持たなくなる。
- ・100%下請けで仕事をしているため、元請がどれくらい仕事をとれるかにかかっている部分もある。

○週休2日について

- ・週休2日の方向で進めている予定はあるが、人が少なく難しい部分がある。
- ・変則労働で対応しているが、建築現場では突貫工事として音や振動の関係で休日にしか出来ない工事もある。業界全体の問題として業界全体で声が上がれば、週休2日制は出来るかもしれない。

○その他

- ・夏場は天候に左右されたり、人が足りないため現場がギリギリになったり残業が増えることもある。
- ・公契約条例のことは承知していない。